

IMPACT モデルを用いた循環器疾患死亡率の変化の分析に関する研究

本研究室では、「IMPACT モデルを用いた循環器疾患死亡率の変化の分析」という研究を行っています。この研究は、直近 30 年間の日本人男女における循環器疾患の死亡率減少に、リスクファクターと治療法の変化がそれぞれどの程度関与したのかを明らかにし、臨床や政策決定において有用な情報を提供することを目的とする研究です。

[対象となる方]

1980 年及び 2010 年時点で 25～84 歳の日本人男女

[研究期間]

2016 年 1 月 29 日から 2020 年 4 月 17 日まで

2017 年 5 月 30 日以降はデータの取得は行いません。

[研究の背景]

日本において、循環器疾患は未だ主な死因の一つです。循環器疾患死亡率の変化に、リスクファクターと治療法の変化がそれぞれどう関与してきたかを明らかにすることは、今後の臨床現場における意思決定や政策決定に有用です。

[研究の目的]

リバプール大学の Simon Capewell 教授らによって作られた、IMPACT mortality model というモデルを用います。直近 30 年におけるリスクファクターの保有率と治療法の実施率の変化、それぞれの死亡率減少効果から、例えば喫煙率の変化で循環器疾患死亡率が減少した原因の〇%が説明できるというように関与の度合いを求めます。

[研究の方法]

この研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を守り、倫理委員会の承認の上実施されます。使用するデータベースは全て匿名化処理がされており、個人情報扱うことはいたしません。したがって対象者の方の個人情報が漏れることはありません。

研究結果は個人が特定できない形式で学会等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと研究終了後 10 年間保管されます。ご不明な点があれば、下記までお尋ねください。

[問い合わせ先]

国立循環器病研究センター 循環器病統合情報センター
センター長 宮本恵宏（研究責任者）

住所：大阪府吹田市藤白台 5 丁目 7 番 1 号 電話：06-6833-5012（内線 3226）